

開花期における樹冠浸水での被害実態

研究のねらい

1997年5月8日に、リンゴの開花期を迎えた岩木川河川敷の園地において樹冠浸水が発生したので、リンゴ樹に及ぼす影響を調査し生産指導の参考とする。

研究の成果

花そうや葉そうの腐敗は冠水時間が長かった下枝及び冠水の深い園地ほど多かった。また、葉、果実及び新しょう先端の腐敗も見られ、主な菌として、疫病菌である *Phytophthora cactorum* 及び *Phytophthora cambivora* が検出された。

結実率及び着果率は冠水時間が長かった下枝及び冠水の深い園地ほど低かった。また、葉や花についたゴミや泥を丁寧に落とした園地での結実率及び着果率は、大まかに落とした園地よりも高かった。

果実のサビ発生に対する冠水の影響は見られなかったが、がくあ部にゴミや泥が入った果実は、冠水時間が長かった下枝ほど多かった。

未開薬花の花粉発芽能力に対する冠水の影響は見られなかった。



第1図 樹冠浸水区域



冠水したリンゴ樹



腐敗した花そうや葉そう

発表資料

青森県農林部りんご課 (1998). 樹冠浸水りんご園調査指導実績報告書: 48-64.